

授業改善推進チームを効果的に活用した実践

～指導と評価の一体化を意識した授業改善～
白老町立萩野小学校 学級数9 (校長 田村 雅嘉)

I 実践テーマの趣旨

本校では、令和2年度より北海道教育委員会「授業改善推進チーム活用事業」の指定を受け、教科指導における豊富な経験や高い実践の指導力を有する授業改善推進教員3名が「チーム」となり、1週間を単位として3校を巡回し、ティーム・ティーチングを行うとともに、日常の授業改善による学力向上に取り組んできた。

昨年度は、学習過程や各段階における指導の改善を図り、言語活動の充実や導入・展開・終末の時間配分の工夫等、学級担任の授業改善が図られるなど成果が見られた。今年度は、全国学力・学習状況調査等の分析から、知識・技能の確実な習得及び活用において課題が見られたことから、授業改善推進チームとともに、子どもに身に付けさせたい力を明確にした国語科及び算数科の授業づくりに取り組んでいる。

II 実践の概要

1 共通取組事項の設定

子どもに身に付けさせたい力を明確にした授業づくりを全校的に推進していくために、共通取組事項として以下の2点を設定し、学級担任と授業改善推進チームとの協働による授業づくりを行っている。

(1) 具体的な評価規準の設定

単元(教材)を見通して、B評価(「おおむね満足できる」状況)とC評価(「努力を要する」状況)を明確にするとともに、評価規準を踏まえ、本時のねらいを「どのように達成させるのか」を意識した効果的な学習活動を設定することで、子どものつまずきに対応することができた。

(2) 学習活動に応じた評価場面の設定

単元の指導計画の作成において、どの場面で評価を行うか、3観点のバランスを考えながら位置付けるようにすることで、子どもたちに確実に力を付ける授業づくりに取り組むとともに、評価規準を明確にすることで、個々の学習の達成状況を的確に見取り、個に応じた指導の充実を図ることができた。



【推進教員とのティーム・ティーチングによる指導】

2 授業づくりにおける検証改善サイクルの強化

授業づくりにおいて、C(振り返り・評価)とA(指導改善)を意識することができるよう、以下の手立てにより検証改善サイクルを強化している。

(1) 授業後の協議による学級担任の気付き

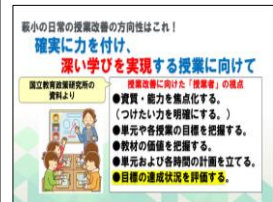
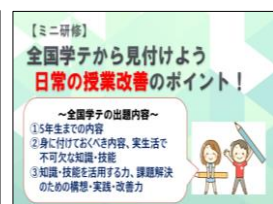
授業後に学級担任と授業改善推進教員が評価規準による見取りをもとに振り返ることにより、具体的な工夫や改善点を協議し、次の指導に生かすことができた。

(2) 授業改善通信による授業改善のポイントの共有

授業改善推進教員が来校した週に発行される通信により、共通取組事項について教職員間の共通理解を深めることができた。

(3) 各種学力調査等の結果分析の共有

授業改善による学力向上の取組を推進するため、各種学力調査や「ほっかいどうチャレンジテスト」の結果分析について学級担任と授業改善推進教員が共有することができた。



【授業改善通信「AT Home」と研修資料】

III 実践の成果(○)と課題(●)

- 授業改善推進教員と学級担任が協働して授業改善に取り組む関係が築かれており、前期学校評価において、児童の授業に対する肯定的評価が9割を超えるなど、授業改善が進んでいる。
- 授業づくりにおける検証改善サイクルの改善を通して、学級担任が日常の授業改善を主体的に進めていくことが必要である。